

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第3回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	令和3年11月26日(金) 午前 午後) 10時00分 開会 午前 午後) 12時00分 閉会
開催場所	茨木市役所 本館1階 第3会議室
議 長	野口 義文 氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)
出 席 者	伊津田 崇氏 (中小企業診断士)、大岩 賢悟氏 (公募市民)、笹井 直木氏 (茨木商工会議所)、高石 秀之氏 (工業事業者)、谷 正之氏 (バイオインキュベーション施設運営事業者)、辻田 素子氏 (龍谷大学 経済学部)、野口 義文氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)、前川 哲司氏 (北おおさか信用金庫)、前田 幸子氏 (商業事業者)、森本 康嗣氏 (公募市民) (10人)
欠 席 者	西村 庄司氏 (農業事業者)
事務局職員	河原商工労政課長、富崎商工労政課参事、武部商工労政課長代理、堀企業支援係長、上山商工労政課職員 (5人)
議題(案件)	(1) 趣旨説明 (2) 会議の公開について (3) 茨木市産業振興アクションプラン改定に係る素案について (4) 茨木市企業立地促進奨励金制度について (5) その他
配付資料	・資料1 茨木市産業振興アクションプラン改定素案

議事の経過

1 開会

事務局：開会のあいさつ

委員出席状況（11人中10人出席により会議成立）

2 会議の公開について

事務局：市の指針に則り、会議は原則公開とする。

会議録は要約したものを公開する。発言者は個人名を記載する。

なお、今回の傍聴希望者はなし。

3 茨木市産業振興アクションプラン改定に係る素案について

事務局：（資料1をもとに説明）

<質疑・意見等>

笹井委員：事業承継と創業の両面からの支援という点には賛成です。承継だけではなかなか進んでいかないと思います。茨木市は創業に関してすごく手厚い支援をされており、創業される方は他市に比べて非常に多いのではないのでしょうか。今まで作り上げてきた創業の素地と承継をつなぐことによって「のれんを守る」という事につなげていければと思います。そのため私たちと協力してできるような事業があれば、繋いでほしいと思いますし、承継については創業する人と譲る人の両方の立場があるため、そのどちらにも支援をするといった内容の書き方をしてもらえればと思います。

前川委員：承継については私たちも事業として取り組んでいます。事業の引き取りのためのマッチングについても周知を図っていかなくてはいけないという認識を持っています。

前田委員：プランについて、支援という言葉がたくさん出てきますが、市役所として具体的にはどの辺りまで支援してもらえるのか、分かるようにしてもらいたいと感じました。金融機関や商工会議所は気軽に相談に行けるのですが、市役所でどのような支援をもらえるのかが、分かりにくく、支援を求める敷居が高いと感じています。もう少し具体的に示してもらえれば、件数の伸び等にもつながっていくのではないのでしょうか。

委員長：現場の事業者目線から見て、コンタクトしやすいような文書にしてもらいたいという事ですね。また実際に現場の目線まで落とし込んだ施策については、予算や政策に現れてくるものかと思います。指摘のあった事業者目線という部分を事務局で考えてもらえればと思います。

辻田委員：25ページの「市が担うべき役割」についてですが、「（1）必要な制度や施策の創出」という部分について、施策を知ってもらうための内容も盛り込むべきではないのでしょうか。そのような内容が追加されることにより、実際に施策を行っていく場

合にどのように周知を図っていくのかという事も、この委員会で議論ができるのではないのでしょうか。

二点目に8ページの「産業に係る社会情勢の変化」について、DX（デジタルトランスフォーメーション）やICTといった部分は記載しなくていいのでしょうか。このような技術進化の中での支援といった視点も必要になってくるのではないのでしょうか。

三点目に創業と承継への支援についてですが、指標として挙げられているのは創業や新規出店の支援ばかりです。承継についても重点的に支援するという議論になっていますが、具体的な成果指標は設定されていません。もし承継も創業と同じように支援をするのであれば、どこかに承継に関する成果指標を設定するべきではないのでしょうか。

森本委員：前回もお話しましたが、プロセス目標はたくさん書かれています。しかしその指標を全てクリアすればプランが達成したと言えるのかを考えたときに、やはりKGIが設定されていないため、施策の評価や振り返りが難しいのではないかと感じました。例えば承継について支援するといった場合、承継の件数が下がっているのであれば、「何%増加させる」や「横ばいのまま推移させる」といったような、具体的な判断ができる指標を設定するべきではないのでしょうか。総合計画における「めざす姿」がありますが、何をすればその目標が達成できたと判断できるのか、施策内の取組の3項目にそれぞれ目標値を設定するべきではないかと思えます。

また後期アクションプランについても、課題があったと書かれています。課題があるという事は現状と目標を意識しており、両者の間に乖離があると認識しているのだと思いますが、その目標の部分が曖昧だと感じます。そこをはっきりさせることによって、課題を解決するための目標があり、それを実現するための施策に繋がっていくのだと思います。ただ、今は課題を解決するための施策は書かれています、目標が明確でないため、そこを設定しなければ、プランの振り返りや評価にはつながらないのではないのでしょうか。

委員長：ここでは「めざす姿」を目標に掲げているのですが、それでは分かりにくいでしょうか。

森本委員：目標とする数値が無いと、例えば推進委員会のメンバーが変わってしまった場合など、評価が難しいのではないのでしょうか。また事務局から「この部分については伸びしろがある」といった発言もありましたので、めざしている部分があるのであれば、そこを数値的に可視化できれば、委員が変わっても判断ができるのではないのでしょうか。

谷委員：辻田委員のお話にもありましたが、施策を作るだけでなく、広く使ってもらうためにどうすれば良いのかが大切だと思います。例えば市に、市と民間をつなぐコーディネーターを置くなど、組織的にも踏み込んで考えるべきではないのでしょうか。また、このプランとその他産業が関わるプランやまちづくり計画との関連性が、分かりにくいと感じました。

さらに、産業に係る社会情勢の変化について、「新型コロナウイルス感染症の拡大」項目の中に、テレワークに関する記述がありますが、これはコロナの影響だけではないと思います。そのため、コロナという枠組みではなく、生活様式の変化という枠組みで考えるべきではないでしょうか。この点に関しては、大阪府と大阪市が連携してスマートシティ構想を推進しているため、そのような動きについても盛り込んではどうでしょうか。

伊津田委員：成果指標について、定量的な指標はもちろん必要ですが、定量的なものばかりになってしまっているような気がします。例えば創業した人の満足度といったような定性的な指標を入れる方が、より分かりやすいのではないかと感じました。

大岩委員：16 ページに支援の方向性として「情報発信の充実」という項目が挙げられていますが、DX の推進やコロナ禍によって、更にインターネットでの情報発信が中心になってきました。特にコロナ関連では、早く伝えないといけない情報が多く、そのような視点でも取り組んでもらえたらと思います。

また先ほど谷委員からコーディネーターの話が出ましたが、茨木のめざすべき姿や茨木らしさといった部分をよく理解した上で、ファシリテートしてくれる存在がいれば良いのではないかと感じました。

高石委員：私自身、前期（平成 23 年度～平成 27 年度）アクションプランから委員会に携わっていますが、自身としてはめざす将来像になかなか近づいていると思えないのが現状です。色々な施策があり今の茨木市があるのですが、なかなかプランの効果を実感できていないと思っています。その原因を考えた際に、茨木市の産業について、交通網の整備や大規模工場の立地といった外的要因での変化はありましたが、このプラン自体が、産業に影響を与えるだけのものになりきれていないのではないのでしょうか。そのため次のプランでは、少なからず産業に影響を与えるようなプランになってくれればと感じています。

前田委員：私も一事業者としてあまり茨木市の産業について、大きな変化があったようには感じられていないため、高石委員の意見にとっても共感しました。

委員長：やはり 25 ページにある「推進体制のあり方」そして「市が担うべき役割」の部分がとても重要になってくるのではないかと考えます。市がどのようにプランを推し進めていくのかを詳細に書くことによって、振り返りもしやすくなると思いますので、引き続き、検討頂ければと思います。

4 企業立地促進奨励金制度について

事務局：（制度について説明）

5 その他

事務局：次回の推進委員会はパブリックコメント終了後を予定しております。

それでは、以上をもちまして委員会を閉会させていただきます。

ありがとうございました。